



一般社団法人 石川県社会福祉士会

石川CSW82号

vol.
82

いっし〜通信

〒920-8557
 石川県金沢市本多町3丁目1番10号
 石川県社会福祉会館2階
 TEL:076-207-7770
 FAX:076-207-5460
 E-mail:icsw@spacelan.ne.jp
 URL:<https://csw-ishikawa.com/>

いのち咲き誇る能登へ ~社会福祉士のつながりを活かして~



東海・北陸ブロック
 災害協定の調印式
 (2025年10月12日)



道の駅桜峠の桜
 (2025年4月撮影)



石川県社会福祉士会の 主な災害支援活動 (2024年9月～2025年10月)

被災者の命と暮らしを守る社会福祉士として

能登半島地震発生から間もなく2年を迎えます。会員の皆さんには当会の被災者支援の取り組みにご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

2025年5月、改正災害救助法等が成立しました。能登半島地震では過酷な避難生活や医療・福祉の提供体制のひっ迫、震災によるショックやストレスなどが原因となり、災害関連死でたくさんの人が犠牲になりました。これらの反省から法改正では、被災者支援の考え方を「場所」から「人」に転換し、「福祉」が災害救助の重要な要素に加えられたことは画期的なことといえます。私たちは今回の大災害で様々な福祉的支援の課題を目の当たりにしました。今後、この教訓を生かすことが私たちの使命であり、被災者の命と暮らし、そして尊厳を守る福祉の価値を改めて再認識しました。

今年度、新たに災害ケースマネジメント事業の取り組みを開始しました。対象世帯は様々な事情や想いを抱え、問題も複雑化しています。災害関

連の制度は要件や期限など制約も多く、必ずしも被災者に優しいものではありません。社会福祉士らしく丁寧な支援を心がけ、関係機関と協力しながら被災者と共に生活再建を目指していきます。

これからも職能団体としての支援を継続していくことが、能登の復興につながることを信じて、息の長い活動を行ってまいります。また、いつ、どこで大きな災害が起こるか分かりません。「災害への備え」が何よりも大事です。関係機関との実効性のある連携体制の構築やマニュアルの整備など、平時からできることを着実に進めてまいります。会員の皆さんには今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



会長 末松 良浩

2024年9月～12月

- 9月7～8日 都道府県社会福祉士会会長会議で石川県社会福祉士会の災害支援活動報告・御礼
- 10月6日 北陸ブロック社会福祉士会会議(福井県)で石川県社会福祉士会の災害支援活動を報告、意見交換
- 11月7日 東海北陸ブロック災害担当者打合せで石川県社会福祉士会の災害支援活動報告・意見交換
- 12月5日 能登ブロックで江崎太郎氏(特定非営利活動法人YNF代表理事)を講師に研修会「災害ケースマネジメントを学ぶ」を開催(48名が参加)
- 12月21日 「あつまらんけ～のと！」(金沢福祉用具情報プラザ)にて石川県社会福祉士会の活動終了



北陸ブロック社会福祉士会会議



能登ブロック研修会

今回の特集では、昨年に引き続き、昨年9月以降から本年の秋までの石川県社会福祉士会としての主な取組について取りまとめました。対応が長期化する中、石川県社会福祉士会では、県内外で活動実態を報告するとともに連携を深めながら、現場での「災害ケースマネジメント」等の事業を新たにスタートさせました。引き続き、会員の皆さまのご理解・ご協力を何卒お願い申し上げます。

2025年

- 1月12日 日本災害福祉研究会の第1回日本災害福祉シンポジウム(兵庫県)にて事例報告「石川県社会福祉士会の能登半島地震における福祉支援調整」
- 2月1日 石川県社会福祉協議会・いしかわソーシャルワーカー連絡会「令和6年度地域共生セミナー」を開催。6団体から実践発表「能登半島地震・奥能登豪雨で発揮したソーシャルワーカーの『力』～被災者の状況に応じた切れ目ない支援～」
- 2月8日 石川県社会福祉士会設立30周年事業
記念講演・災害支援シンポジウムを計画も
大雪のため中止

※記念講演「地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割」～能登の復興・未来に向かって～(講師:関西学院大学名誉教授 牧里 每治氏)は、5月31日に第33回定時総会特別企画として開催した。
- 2月22日 能登地区三団体合同研修会(石川県社会福祉士会能登ブロック・医療ソーシャルワーカー協会・介護支援専門員協会能登中部・北部支部)を開催。3団体から実践報告「能登半島地震が繋げたもの～それぞれの立場から考える今までとこれから～」

3月

日本社会福祉士会「社会福祉士等の実践・活用等に関する事例集」発行(厚生労働省補助金事業)



日本社会福祉士会冊子表紙

■関連会議の定期開催・参画

- ・石川県社会福祉士会災害対策本部会議
(定期:毎月1回(理事会後)、随時)
- ・いしかわソーシャル&ケアワーカー連絡会会議
(定期:2カ月に1回)

いしかわソーシャル&ケアワーカー連絡会

理事 島野 桂太郎

連絡会加盟団体

- ① 石川県社会福祉士会
 - ② 石川県医療ソーシャルワーカー協会
 - ③ 石川県精神保健福祉士会
 - ④ 石川県介護支援専門員協会
 - ⑤ 石川県相談支援専門員協会
 - ⑥ 石川県介護福祉士会
- *オブザーバー 石川県社会福祉協議会

2025年

- 5月31日 石川県社会福祉士会第33回定時総会にて石川県社会福祉士会の災害支援活動報告と新規事業「災害ケースマネジメント事業」の説明
- 7月12日 千葉県社会福祉士会 能登半島地震被災地支援活動報告会・研修会にて実践報告「石川県社会福祉士会の災害支援活動」

7月27日 秋田県で開催された日本災害福祉研究会第1回研究大会にて実践報告「能登半島地震の広域避難者を支えるソーシャルワーク—発災直後の取組みから中長期的な取組みの有用性—」

10月12日 東海北陸ブロック7県の社会福祉士会が集まり、「災害支援協定調印式および情報交換会」を開催



東海・北陸ブロック7県で 災害時の連携強化

理事 大田 健志

2025年10月12日、金沢福祉用具情報プラザにて、「東海北陸ブロック社会福祉士会 災害時連携及び相互支援協定調印式・情報交換会」が行われました。

主な趣旨としては、東海ブロック(岐阜、静岡、愛知、三重)と北陸ブロック(富山、福井、石川)間で、災害発生時の相互連携、事務局機能の継続を目的として、平時からの定期的な情報共有会議の開催、幹事県(今年は東海が静岡県、北陸が石川県)を定めて被災県からの要請に

基づく支援調整を行うなど、ブロック間の支援・受援体制の構築を目的とした協定を策定、調印するものです。

当日は、7県から会長ほか役員が計24人集まり、当会から災害ケースマネジメント事業の進捗報告を行うなど活発な意見交換が行われ、平時から備え、県・ブロックを越えて顔の見える関係を構築していくことが大切であることを再認識する機会となりました。

■ 災害ケースマネジメント事業（2025年から実施）

- 5月31日 第33回定時総会にて事業説明
- 7月10日 日本社会福祉士会・北陸三県社会福祉士会災害ケースマネジメント説明会を実施し、事業概要の説明・活動者募集・意見交換
- 8月12日 石川県(厚生政策課・生活再建支援課)訪問、いしかわ被災者支援センターを訪問し、事業説明・事業への協力依頼・意見交換
- 8月25日 志賀町地域包括支援センター・地域支え合いセンターを訪問し、事業説明・事業への協力依頼・意見交換
- 9月18日 穴水町地域支え合いセンターを訪問し、事業説明・事業への協力依頼・意見交換
- 9月24日 災害ケースマネジメント事業のキックオフミーティングとして第1回災害ケースマネジメントミーティングを開催。災害ソーシャルワーカー(活動者10名)紹介、担当世帯、マネジメントの視点、使用帳票、活動報告、実費弁償費、保険等の説明、意見交換

副会長 北脇 宜和

この事業は、「被災者一人ひとりの被災状況や生活状況の課題等を個別の相談等により把握した上で、必要に応じ専門的な能力をもつ関係者と連携しながら、当該課題等の解消に向けて継続的に支援することにより、被災者の自立・生活再建が進むようにマネジメントする取組み」です。



ソーシャルワークとの比較は下表のとおりです。まさに災害時におけるソーシャルワークの理念と技術が求められます。

	災害ケースマネジメント	ソーシャルワーク
目的	被災者一人ひとりの生活再建と自立のプロセスを支援する	個人の尊厳を尊重し、抱える問題の解決や生活の改善・自立を目指す
視点	被災者の状況を生活全体から総合的に把握し、個別課題に合わせた継続的な支援を行う	生活環境や社会資源との相互作用を含め、全体像として個人を捉える(環境の中の人間)
原則	アウトリーチによるニーズの発見、官民連携、継続的な支援	傾聴・受容、個別化、自己決定の尊重、社会資源の活用・開発

私たちは、能登半島地震発災後の緊急期・急性期を乗り越え、人命救助後の「生活再建」という長期的な課題解決に向き合い、さらに本年、富山県・福井県士会会員の協力を得て10人5チームで当事業をスタートさせました。チームで活動する方と本会災害対策本部が一丸となり、日本士会の助言もいただきながら、ソーシャルワークの有用性を表現・発信していきたいと考えています。

リーガルソーシャルワーク委員会を発足しました!

ソーシャルワーク推進部担当理事 小堺 有希

■委員会の概要

リーガルソーシャルワークへの期待が高まる流れを受け、2025年度より石川県社会福祉士会としてもリーガルソーシャルワーク委員会を発足させることとなりました。

現在、14名の委員が所属し、Zoom利用で年4回の運営会議(今年度は第2回目まで開催済み)と年2回の石川県社会福祉士会会員向け全体研修会(今年度は第1回開催済み)の企画を行っています。併せて司法関係職能団体との合同研修及び意見交換を行い、親睦を深めることを目的とした連携事業予定をしています。



リーガルソーシャルワーク委員会研修

刑事事件を契機とする司法と福祉の協働のみならず、人が地域で生活を送る中で起こり得る生活課題(民事や家事も)を想定して、学びを深める場として石川県社会福祉士会ではリーガルソーシャルワーク委員会を展開していく予定です。

■第1回研修会を開催

2025年9月6日にはリーガルソーシャルワーク委員会第1回研修を開催しました。当日は理学療法士、介護支援専門員、ASK認定依存症予防教育アドバイザーであり、クレプトマニア当事者としてWebサイト「クレプトマニアからの脱却」で情報を発信するほか、当事者として大学での講演、病院等にメッセージを届けるなどの活動と「依存症オンラインルーム【クレプトマニア(窃盗症)】Room K」の運営をされている高橋悠さんを講師にお招きして「それでも浮き輪を投げ続ける クレプトマニア当事者のわたしにできること」をテーマに社会福祉士会、精神保健福祉士会、弁護士会の会員24名が学びを深めました。

高橋悠さんの実体験に基づく当事者として感じていることの明確な言語化が研修参加者の心に響き、自分たちの日ごろの支援を振り返る機会となりました。研修終了後のアンケートでは「支援者として一人一人に合わせたいろいろな色の浮き輪を投げ続けられる存在でありたい。」との声も聞かれました。

新理事紹介

達一樹

皆さま初めまして。今年度から能登ブロック担当理事を拝命致しました、達と申します。社会福祉士としての経験はまだ少ないですが、理事になったからには、会員の皆さんと協力しながら社会福祉士会を盛り上げていきたいと思っております。普段は、高齢者施設で相談援助の仕事をしております。これまで社会福祉士会の活動としては、金沢城リーマラソン、金城大学学園祭に参加。支援活動としては、額谷ふれあい体育館や地域支え合いセンター等に参加してきました。社会福祉士会に加入することでたくさんのイベントや研修、事業等に関わる機会が増えたと実感しています。会員の皆さんのが楽しみながら繋がりを増やしていくような企画を考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。



北 美幸

主に災害福祉担当として、令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨をうけて、今年度より新たに実施する「災害ケースマネジメント事業」に携わっています。被災されたことで、これまでの生活から一変し、今後の生活をどう再建していくのかに直面しながらも、受け入れることができないまま生活されている被災者も多くいらっしゃいます。

この事業は動き出したばかりですが、被災された方の自立や生活再建に向けて、それぞれの想いを大切にしながら支援していく存在として、ケースを担当していただく会員の支援者の皆さんとともに考えていきたいです。よろしくお願いいたします。



大田 健志

今年度より理事を拝命しました。金城大学での国家試験対策講座の講師や広報委員長をしていることからお声掛けをいただいたと思いますが、日頃は多くの会員の皆さんに行っているような相談支援とは離れた業務をしているため、自分に務まるのか不安な思いもあります。ただ、そんな私だからこそ違った視点で気付けることを発信しながら組織事業強化部担当ということで、垣内光子副会長とともに「いっし～通信」等の内外への広報活動、会員拡大、そして各事業の活性化に向けた諸活動に尽力したいと思いますので、ご指導・ご鞭撻をお願いします。



新入会員紹介



豊島 真実 株式会社 Smile-LAB. 相談支援 Nicone.

幼少期から福祉の世界に关心を持ち、手話を学び始めました。中学生の頃には、困っている人の力になりたいという思いから社会福祉士を志しましたが、当時は父の反対もあり諦めた時期もありました。しかし、それでも夢を諦めることができず、介護の道へ進みました。病院勤務の中で、多くの方との出会いや学びから、命の尊さや生きる力を強く感じ、一人でも多くの方が笑顔で、元気に安心して暮らせるように支えたいという思いが深まりました。

現在は、野々市市で「訪問介護事業所へいわーど」「相談支援 Nicone.」を運営しています。地域に根ざした事業所として、利用者やご家族の声に耳を傾け、その人らしい生活を守る自立支援型、そして笑顔のある日常を支える伴走型の支援を大

切にしています。ずっと心搖るがず福祉の道に進んできたこともあります。かつて反対していた父も、今では私の活動を誰よりも応援してくれています。

社会福祉士としての第一歩を踏み出した今、表面には見えにくい一人ひとりの想いを受け止め、その人に本当に必要な支援を届けられる社会福祉士を目指しています。また、これまで介護や相談支援の現場で、判断力が低下した方や、管理に困っている方の意思決定支援に関わってきました。その中で、権利を護る仕組みの大切さを感じ、法的・倫理的に支援できる成年後見人の立場に关心を持ちました。現在、成年後見の勉強をするための第一歩として、基礎研修を受講中です。これからも学びを重ねながら、誰かが迷ったときに安心して相談できるような存在を目指していきたいと思います。



保住 賢哉 珠洲ささえ愛センター 訪問相談員

みなさん、はじめまして！2025年度より、岡山県社会福祉士会から転入して参りました、石川県社会福祉士会としては新人会員の保住賢哉と申します。

私は、平成28年熊本地震から福祉業界に転職し、被災者見守り・相談支援事業の生活支援相談員として働き始めたと同時に、社会福祉士取得に向けて一から勉強を開始しました。また地元である岡山で発生した平成30年7月豪雨（西日本豪雨）でも生活支援相談員として従事し、のちに社会福祉士を取得したことから地域包括支援センターの社会福祉士としても従事しました。そして現在は、令和6年能登半島地震発生に伴い珠洲市社会福祉協議会に設置されている、「珠洲ささえ愛センター」に所属し訪問相談員（生活支援相談員と同じ）として従事しています。

被災者見守り・相談支援事業の主な役割は二つあります。

一つは、応急仮設住宅にお住まいの方、ご自宅にお住まい（在宅）の方々を戸別訪問する個別支援です。生活支援相談員のアウトリーチは、情報が被災された方ということだけで、それ以外はほとんど分かりません。玄関の扉が開いて、相手と会話をしていくなかでニーズを発見していきます。孤立防止等のための見守り活動や日常生活上の相談を受け、関係機関につなぐなどして生活再建や自立への支援を行っています。

もう一つは、住民同士の集いの場づくり、地域交流の促進などの地域支援です。仮設団地の集会所でお茶会（ふれあいサロン）や健康相談会を開催し、互助の力を育んでいます。これから課題は、「はさみ状格差」といって、生活再建ができる人と、そうでない人との格差が徐々に開いていくことにより、取り残され感が発生すると考えられます。このような差が出ないように支援していくことが重要です。

これから石川県社会福祉士会でやってみたいことは、業務上、高齢者と触れ合う機会が多いことから、成年後見人を目指しています。そのため、現在、成年後見人材育成研修を受講して

いるところです。

週末は「石川県地域支え合いセンター金沢」の生活支援相談員として、震災や豪雨災害によって住居を失い、地元を離れて金沢市内の民間賃貸住宅（みなし仮設住宅）に入居されている方への見守り訪問活動を行っています。珠洲ささえ愛センターと同様に、「傾聴・受容・支持」を心掛けて活動しています。この活動が気になっている方は、ぜひ一緒に活動しましょう。それでは、これからどうぞよろしくお願ひいたします。



珠洲ささえ愛センター



石川県地域支え合いセンター金沢

● 加賀ブロック 困難事例勉強会を開催

加賀ブロック 篠木 紘里

2025年9月6日に、小松市第一地区コミュニティーセンターで「身寄りのない人・低所得者の住宅確保について考える」をテーマに志乃丘商事株式会社代表取締役の篠岡沁一郎氏よりご講義をいただきましたので私の所感を述べさせていただきます。最近は、身寄りのない人・低所得者の住居を確保することが困難になってきています。どのようにしたら利用者の方が住まいを確保できるか、今回の勉強会を通して多くのことを学ぶことができました。上記のような住宅の確保が難しい方を、国は法律で「住宅確保要配慮者」と定めています。住宅確保要配慮者とは、低所得者、被害者、高齢者、障害者、子どもを養育している者、住宅確保に特に配慮を要するものとして国土交通省令で定める者となります。これらの住宅確保要配慮者（賃借人）が何故住居を借りることが難しいのか？理由としては、大家（賃貸人）が住宅を貸しやすい市場環境の整備がされていないことがあることが分かりました。①要配慮者に対する家賃債務保証制度の充実や緊急連絡先が確保できないこと、②生活保護受給者への住宅扶助の代理納付の原則化がされていないこと、③居住支援法人の関与など、孤独死した場合の残置物処理等の負担があること、④終身建物賃貸借の対象住宅が少なく事務手続きが煩雑であること、⑤賃貸人が安心して住宅を提供できるよう、安否確認や見守りなどの入居者のサポートが十分でないこと等です。これらを充実させることがこれからの課題であり、今後は大家と要配慮者のいずれもが安心して利用できる市場環境の整備、居住支援法人が入居中サポートを行う賃貸住宅の提供促進、住宅施策と福祉施策が連携した地域の居住支援体制の強化が必要であるとのことでした。私たちができることは、情報を収集し、住宅業者等と連携をして住宅確保に対応していくことであると思いました。



議論も盛り上がった

● 金沢城リレーマラソン

窪田 由花

2025年9月28日、「金沢城リレーマラソン2025秋の陣」に今年も参加しました。当日は天候に恵まれ過ぎるほどの快晴で、強い日差しの中、金沢城内の特設コース（1周1.9km）をそれぞれ1～2周走りました。

社会福祉士会チームはハーフコースに2チームで参加し、記録を狙うAチームと、制限時間内での完走を目標とするBチームに分かれました。事前に、誰から襷（たすき）を受け取り誰に渡すのか、また走順や周回数などを確認するなど、しっかりと作戦!?を立てた結果、両チームとも無事に完走することができました。

コースには激坂もあり苦しい場面もありましたが、他チームのランナーたちに、抜きつ抜かれつしながら、沿道からの温かい声援を力に変えて走り抜けました。特に、社会福祉士会の仲間たちからの声援は大きな励みとなり、改めて「仲間の存在の心強さ」を実感しました。

走り終えた後は、青空の下でチビ宴会！同じ目標に向かって汗を流した仲間たちとは、自然と交流が深まりました。それぞれ異なる分野で活躍する仲間と「つながる」ことができ、とても貴重な機会となりました。

「走ってみたい！」と思われた方は、ぜひ次回一緒に走りましょう！



残暑の中、健康に楽しく！

●能登・金沢合同研修会&BBQ交流会を開催

能登ブロック理事 達一樹

2025年10月4日（土）、能登ブロック、金沢ブロック、ユース委員会の合同企画として、羽咋市のバーベキュー場「アウトドアリゾート891」で日本栄養連盟石川支部支部長の橋本良子氏をお招きして「～ご存知ですか？非常食のこんな調理法を管理栄養士からのご提案～」と題して非常食作りの勉強会を開催しました。アイラップでお米、お粥、野菜の煮物作りを実際に体験し、実食もしました。参加した会員からは「アイラップでこんなに美味しいご飯が炊けるんだ」、「少ない水で煮物ができるのは良い」等と意見がありました。講義を聴きながら質問が飛び交い良い研修会だったと思います。研修会後には、橋本氏も交えてバーベキューを行いました。

バーベキューでは、美味しいお肉やギョーザ等を食べながら親睦を深めました。飲食店で食べるのも良いですが、一緒に汗をかき調理をしながら同じ釜の飯を食べることでさらに仲が深まったと感じました。また、今回はブロック合同で開催したことで、普段は別々のエリアで生活しており接する機会が少ない方々とも顔を合わせる事で新しい繋がりができたと考えています。今後もこのような機会を設けていければと考えています。



バーベキューで親交を深めました

●大雨の中でも…福祉のつどい出展

広報委員長 大田 健志

2025年10月5日、松ヶ枝福祉館及び松ヶ枝緑地にて、「福祉のつどい金沢2025」が開催されました。

社会福祉士会広報委員会では、毎年恒例のスーパー博覧会を展出しました。昨年から猛暑を考慮して10月開催となつたため気温は問題なかったのですが、出展ブースのテントに水が溜まってしまうほどの荒天。緑地は泥だらけ、時折視界を遮られるような大雨の中にもかかわらず42の方に楽しんでいただきました。例年より参加者数が少なかったのは残念ですが、景品の種類も豊富で、取る方は集中しながらも笑い声が絶えない楽しい時間を参加者、広報委員のみんなで共有できました。

“広報”的課題として、社会福祉士会をさらにPRするための工夫にまだまだ改善が必要であり、掲示物等のバリエーションを増やしながら一般の方にも社会福祉士会のことを知ってもらえるような方策を委員会で検討したいと思います。スーパー博覧会のスタッフ、広報委員会は毎年募集中ですので、気になる方は事務局までぜひご連絡ください。



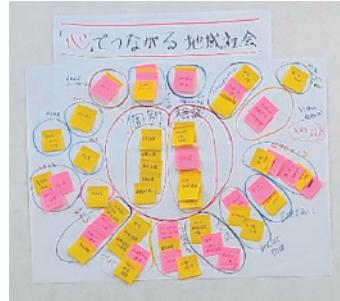
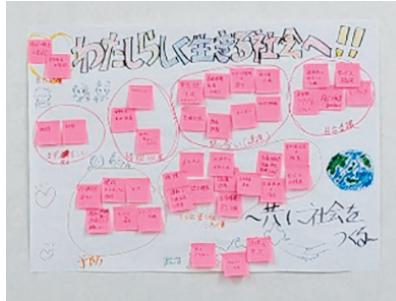
悪天候の中、楽しんでくれました

●社会福祉士になつたら、まず「基礎研修」！

生涯研修部 澤田 康夫

今年度の全基礎研修、開催真っ只中です。基礎研修Ⅰ～Ⅲを6年間（最短3年間）のうちに修了すれば生涯研修制度の10単位が与えられ、次の色々なステップに進むことができます。基礎研修での講師やファシリテーター、スーパーバイザー、成年後見人、認定社会福祉士…これをやらなければ何も始まらないといつても過言ではありません。

ここ数年、コロナのためオンライン開催でしたが、今年度の基礎Ⅰから一部会場集合形態を取っています。やはり直接顔を合わせると、活気が違います。まだ受講していない方は迷わずチャレンジしてください。



●「キッザケアいしかわ」で社会福祉士をPR！

組織事業強化部 垣内 光子

2025年11月8日(土)、県産業展示館3号館にて「キッザケアいしかわ」が開催され、医療・福祉に関する様々な団体がブース出展するなか、社会福祉士会も出展してきました。例年「石川県介護フェスタ」として開催されていましたが、今年度から「キッザケアいしかわ」に名称変更されました。医療・福祉に関心を持っていただくために、介護技能グランプリや、介護ロボット・福祉機器の展示／体験。医療・福祉団体がお仕事体験を通じ将来の介護人材を確保する。また、小中学生に介護・福祉の仕事に触れてもらうことで、介護・福祉に対する興味・関心を育み、現場で活躍する仕事を知ってもらうことを目的としています。



当会は会のPRのために、活動や社会福祉士の資格についてパネル展示、また、成年後見制度の冊子やエンディングノートを展示・紹介。さらに、子供たち向けには、人権の大切さや「いのち」の大切さ、「思いやる心」について毎年恒例の紙芝居の読み聞かせをしました。いくつかの紙芝居の中から、子どもたちに自ら選んでもらいました。「はじまり、はじまりからおしまい」まで、子ども達の目がキラキラでだんだん真剣になって聞いている様子が印象的でした。社会福祉士会活動ガイドブックを手に取られた方がいて、会のことについて質問されました。また、中学生くらいの子が、付き添うお父さんに「社会福祉士会って何？」と聞いていて、お父さんがパネル展示を見て説明していた姿も印象的でした。これからも、介護・福祉を志す人が増える、社会福祉士会を知ってもらう機会になればと思います。



事務局インフォメーション

お知らせ

石川県社会福祉士会ホームページの『会員ページ』について

会員ページは理事会議事録、求人情報等の情報を掲載しています。

会員ページの閲覧にはパスワードが必要ですので、ログインご希望の方は事務局までご連絡ください。



石川県社会福祉士会 HP <https://csw-ishikawa.com/>

★e-ラーニング講座を視聴しよう！

公益社団法人日本社会福祉士会では、ICTを活用して、社会福祉士に必要な知識（生涯研修、専門的な知識・制度施策の動向）等を学ぶ講座の提供を行っています。各種講座はインターネットを介して視聴が可能です。

日本社会福祉士会と石川県社会福祉士会との覚書の締結により、石川県社会福祉士会の正会員は、2020年10月から『日本社会福祉士会e-ラーニング講座』の多くの講座の視聴が無料（一部有料の講座もあります）となりました。

受講手順は、日本社会福祉士会ホームページ内の「e-ラーニング講座」のページから、「e-ラーニング講座のご利用方法」をご覧ください。ぜひ積極的にご活用ください。

★社会福祉士会のDX化に向けて

現在、昨今の物価高騰による印刷費用、郵送費用などの諸経費の増加を受けてペーパーレス化による経費削減の取り組みについて検討を進めています。あわせて、迅速・即時の情報提供体制の構築、災害等緊急時も見据えた会員のみなさまへの連絡手段の充実も含めたシステムの導入についても適切な体制構築に向けて協議を行っています。進捗・ロードマップについては会員のみなさまにも今後ご提案させていただきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

// 編集後記 //

まもなく令和6年能登半島地震から2年を迎ますが、生活再建に向けて住民、そして多くの会員のみなさんが今もご尽力されていることと思います。社会福祉士会としても、横のつながりをいかして日本社会福祉士会、北陸ブロックさらには東海ブロックや他職能団体との連携強化を行うとともに、災害ケースマネジメントの取組も開始しました。

本紙では、これらの取組を会員のみなさんに知っていただくこと、加えて、難局においても各部・ブロック等で工夫して開催された多彩な研修や交流を取り上げました。能登・加賀・金沢が一体となった活動強化に向けて、広報委員会の取組もその一助になると嬉しく思います。

広報委員長 大田 健志